



毎月十五日発行
宗像大社
電話 0940-62-1311
定価 一年送料共 1000円

神具・装束
結婚式場用品
本社 福岡市博多区東公園二一三(一)番
電話 0940-62-6511
支店 福岡市博多区東公園二一三(一)番
電話 0940-62-6511
支店 京都市下京区油小路六条北入(一)番
電話 075-333-3333

いよいよ夏本番

大祓式・夏越祭近づく



神郡宗像もいよいよ夏本番となり、各所の海水浴場も家族連れやマリンスポーツを楽しむ若者達で大いに賑い、週末の旅館は多くの宿泊客で大忙しの上です。そのなか、当大社恒例の大祓式並びに夏越祭が、来る七月三十一日(火)夕刻五時より本殿前神門にて斎行されます。当日は地元氏子総代の方々の奉仕により調整された大茅輪が神門に懸けられます。茅輪とは「備後風土記」によると、武塔天神が蘇民将来に宿を借りたお礼に、これを腰の上に着ければ、疫病を免れると授けたのが、起源とされています。この伝承により、茅輪潜りの風習が生まれました。大茅輪を潜る際には、古歌を奉唱しながら、左、右、左と三度廻りいただきます。

我が国では太古より一年を一回に分け、半年の間に知らず知らず身に付いた罪穢を祓うため、夏越の大祓・年越の大祓を行ってきました。当大社ではこの故事に習い、毎年二回各御家庭に紅白の人形をお送りし、男子は白い人形に、女子は赤い人形にそれぞれ息を吹きかけ、知らず知らず大祓式・夏越祭は、奈良時代の千行り行われて来たもので、年以上の伝統を有する祭祀であります。是非とも皆様方に参列していただき、ご案内申し上げます。

平成二年度
夏越祭・大祓神事御案内
暑さも毎日に厳しさを増してまいりました。さて、恒例の夏越祭が近まってまいりました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ身心の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちをもって明日の生活を安らかにするための祈りをこめたお祭りでもあります。
本年も左記により斎行致しますので、皆様お誘い合せの上御参拝下さいませ。御案内申し上げます。
七月吉日
宗 像 大 社
崇敬者各位
記
一、七月三十一日 午後五時、大祓神事、引続き夏越祭
宗像大社形代について
国宝 滑石人形



去る四月一日大阪の鶴見緑地において「国際花と緑の博覧会」が開会された。近年大気圏の温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨の影響、森林の減少、砂漠化の増大など、地球規模の環境破壊が深刻な問題となっているとき、「花の万博」が「自然と人間の共生」をテーマとしたことは、時節柄すこぶる意義深い。

さて「旧約聖書」の創世記によれば、天地万有を創造したのは唯一絶対の神であるとし、神は神の鳥、野の獣、地に這うすべてのものを支配させたといわれるが、こうしたユダヤ教やキリスト教の宗教観念は、後のデカルトやベーコンによる近代自然観の根源をなし、産業の発展、科学技術の進歩など、近代西歐文明の発達に寄与するところが多岐にわたった。

京都大学の勝田吉太郎教授も前記の一神教について、「自然は岩石のような無機物も、動植物のまっとうな有機物も、すべて人間より低次元の存在であり、人間が支配者となって思がままに処理することを神が許容した」というのである。近代以降に加速度的に発達した科学技術、それと表裏一体の人間中心主義は、そういうユダヤ教、キリスト教の伝統を抜きにしては十分に理解されないであろう」と述べている。つまり近代文明は人間が自然を征服・利用することによって創出されたのであるが、その反面、人間は地球の環境破壊という大きな代償を払わざるを得ない結果となった。こうした反省の上に立つて、人間は当面する地球の危機から如何にして脱出するか、今日の大きな問題として提起されるに至ったが、そうした中で神道のもつ自然観、人間観が新たな視点から見直されるようになったのである。

さきさまの語のこえにもしられけりいきとしける物のおもいはこの明治天皇の御製も、虫けらの中にも尊いいのちと霊性の存在を認め、且ついとしまれる御心がうかがわれ

人間に從属し、搾取掠奪されねばならないと考えてきたが、その結果、今日では地球の反逆に直面している。私たちは地球の声を聞かねばならない。私たちの身体を構成する細胞自体が地球の本質にその根をもつものである。こうした理解は近來、神学者ではなく科学者によって指摘し証明されている」と語ったことは、キリスト者としてはむしろ異端の汎神論的発言であったが、会議に出席していたわれわれ神道人の共感を得るものであった。

見直される神道

さて「旧約聖書」の創世記によれば、天地万有を創造したのは唯一絶対の神であるとし、神は神の鳥、野の獣、地に這うすべてのものを支配させたといわれるが、こうしたユダヤ教やキリスト教の宗教観念は、後のデカルトやベーコンによる近代自然観の根源をなし、産業の発展、科学技術の進歩など、近代西歐文明の発達に寄与するところが多岐にわたった。

京都大学の勝田吉太郎教授も前記の一神教について、「自然は岩石のような無機物も、動植物のまっとうな有機物も、すべて人間より低次元の存在であり、人間が支配者となって思がままに処理することを神が許容した」というのである。近代以降に加速度的に発達した科学技術、それと表裏一体の人間中心主義は、そういうユダヤ教、キリスト教の伝統を抜きにしては十分に理解されないであろう」と述べている。つまり近代文明は人間が自然を征服・利用することによって創出されたのであるが、その反面、人間は地球の環境破壊という大きな代償を払わざるを得ない結果となった。こうした反省の上に立つて、人間は当面する地球の危機から如何にして脱出するか、今日の大きな問題として提起されるに至ったが、そうした中で神道のもつ自然観、人間観が新たな視点から見直されるようになったのである。

然の一頁であり、従って自然を破壊するところから自然と共生すべき本質をもつ。共存共栄とは人間相互の関係の中にあるばかりでなく、人間と自然についても同様と言われねばならぬ。むしろ日本人は自然を畏敬し、自然の中に霊性を認識し、山に登るにしても六根清浄を唱えて登拝し、「山を征服する」という西歐的発想とは根本的に相違するのである。

先年東京で開かれた世界宗教者連理会議において、アメリカ聖公会のチャールズ・カーター師は「これまで私たちは動物や魚、山や川、岩石や土、石油や鉱物、天空と海岸、あらゆるものが

暑中御見舞申し上げます



出光

出光興産株式会社

取締役 沖 禎一郎
福岡支店長

福岡市中央区大名2丁目8番26号
TEL 092-761-1831

宗像大社権宮司に

太田 禰宜昇任



前宇都宮権宮司が昨年三月退任以来空席となつていました。当大社権宮司に禰宜の太田可愛が昇任、去る五月三十一日付を以て就任いたしました。

太田権宮司は、新潟県の出身で、昭和三十三年、学院大学神道学科を卒業、同

年神社本庁調査部へ奉職、同三十七年三月に当大社へ転任、爾來禰宜として祭儀、経理、庶務と当大社の事務に精励し、同五十年禰宜に昇任、以来経理部長、庶務部長、海洋分局长、電算室長の兼任等当大社の神徳発揚と社務運営に著実な実績を積み、此の度の権宮司就任となりました。

今後社務本局長として宮司を補佐し、当大社の隆昌にその実力を遺憾無く発揮し、貢獻されることとす。

宗像大社 権宮司 太田 可愛

宗像大社 献穀田御田植

今秋に執り行われる即位の礼に伴う大嘗祭を奉祝すべく、宗像大社献穀田の清祓・御田植祭が厳粛に肅行された。

献穀田は玄海町吉田の岩佐昭正氏所有田の一面に設けられ、去る六月十九日、清祓を二十四日には荒代・

中代・植代と舟念・鋤かれ、水が張られた献穀田の始め祭壇を設け、田主を始め御田植奉仕者十五名の参列のもと、御田植祭を各々執り行った。

神前に神饌・早苗(ミネアサヒ)をお供へし、修祓・降神・祝詞奏上・玉串拝礼



今日ではほとんど御田植をみる事が出来ないだけに、沿道に車を停め、見物の人等昔ながらの光景にしばし見入っていた。

御田植を終えた奉仕者は汗を拭き拭き即席のテーブルを開き、早苗賑いを行い御田植の楽しさと懐かしさを語り合った。

御田植奉仕者は、主基地地方風俗保存会役員で田主の岩佐氏は同保存会の会長を務めておられる。

昭和天皇御即位に際し福

宗像大社 氏子会評議員会開催

去る七月三日午前十時より氏子会評議員会が当大社清明殿に於て開催され、平成二年度の夏の太鼓式・夏越祭・人形献米袋配布取組とめ方依頼等について、種々検討審議された。

当日は前日までの雨も上がり、河野氏子会長以下六十四名の評議員、神社側から養父宮司以下六名の職員が出席して、定刻通り開催された。

会議は開会の辞に始まり、河野氏子会長、養父宮司より委嘱状が手渡された。

当日の議題は、まず大祓式並夏越祭の件で、担当より大祓の意義についての説明が行われ、氏子・崇敬者が多数参拝され、茅の輪を潜つて今年前半の罪・穢を

池田 小田しめの 汐みちてトラボットに寄る波濤層ともうにうりくだける

河東 薄 かねる 藤色の似合ふやさしき母なりき母に似むとて紫を着る(評)四、五句に於ける母への思慕の念は深い、只上句に今少しの緊密な表現が欲しく思われる。

大島 目原 節子 託児所に常あすけける初孫の作り笑ひをおぼゆる哀れ(評)託児所に預けられる子供達の多い時代を背景に「作り笑ひ」が心に沁みて哀しい。

田熊 鷲頭かつ代 萬の葉のブロッケンからめるを引かむとするに意外に強し

香椎 桜井 ツツ せめき合ふしは鋼のいづに躍り鳴戸の渦はいま小さく湧く

東郷 藤崎 辰子 柿と蜜柑と二本残りてもこのわが畑は整地されてゆく

小倉北 植原 静子 絨毯を膝に替へたる夏座敷涼しきみえてわれは安んじ

吉留 白木うめ 雨毎に伸びて皮脱ぐ竹の子のしたたるばかり緑をなせる

鐘崎 安水 久子 狂ふと降る雨の中カッパ着て急ぎの商品配達にゆく

小倉北 松本 政子 朝の刻つくる山寺の梵鐘のさやけき響速く聞こゆる

中村 吾郎 選 毎月末日切

曲 天野トモエ 頂きし芍薬の花開きたりこの見事さに礼厚く言ふ

八幡西 山崎 ウラ 雨上り静けさ籠る山行は大根の花ひかりてゆるる

田久 立花 勇雄 あす入院の老妻と別れし語りより今宵限りの別れのごとく

八幡東 江口 妙子 春大根種子まき終へて家路にと小走るわれに夕日のまぶし

福岡 清原 絹代 羽を片手登りし白鳥がかる鴨二羽を連れてもとり来

武丸 中村さつき 道の辺のたんぼの架てよ風に輪郭崩し光りつ飛び八幡東 大塩や子梅雨期とも思えぬ程に晴れたればあじさいの花風情之しき

大島 屋形トミエ 巻網の船団は今出航す逆波に揺れて雄々しく

宮田 片山 朔子 マイホームの夢を描きつつ海に死にし少年の名をも忘れず

名古屋 野崎 博三 一片の雨意の雲なく梅雨期を背きて旬日熱帯夜の続く

池田 小田 イセ 爽やかに風の薫るの頬にふれ眼のゆく処若葉が沁みる

徳重 石松や寿子 真夏日の暑さに耐えて田植する子達の好む朝茶を冷す

日の里 後藤 君代 ま向ひの丘を均せる機械音雨の一日を恋にしひびけり

八幡西 山田 耕夕 迷信と思ひあれど櫛折れし不吉のときり今日も動かす

吉留 高山 信子 繰り返す生にはあらず我ら皆向上一路の道字びゆく

神高会総会を開催

神高会とは、戦前の神職高等試験合格者と、戦後の明徳検定試験合格者の親睦団体で、今年創立六十六年を迎える。

昨年の総会は六十五周年という事で、吉田会長の奉務神社である神戸市鎮座彦川神社で、物故会員の慰霊顕彰祭とあわせて行われた。平成二年度は当社養父宮司が同会の会長という。岡原が主基祭田の榮に浴し、主基地方風俗保存会が御下賜戴き、同保存会がこれを保存し、伝承している。関係者もあつて、此の度の献穀田の決定と御田植から挨拶、精米まで、保存会の奉祝行事として奉仕願っている。

神高会とは、戦前の神職高等試験合格者と、戦後の明徳検定試験合格者の親睦団体で、今年創立六十六年を迎える。

昨年の総会は六十五周年という事で、吉田会長の奉務神社である神戸市鎮座彦川神社で、物故会員の慰霊顕彰祭とあわせて行われた。平成二年度は当社養父宮司が同会の会長という。岡原が主基祭田の榮に浴し、主基地方風俗保存会が御下賜戴き、同保存会がこれを保存し、伝承している。関係者もあつて、此の度の献穀田の決定と御田植から挨拶、精米まで、保存会の奉祝行事として奉仕願っている。

第三九回 宗像大社歌会詠草

宗像大社歌会詠草 中村 吾郎 選 毎月末日切

池田 小田しめの 汐みちてトラボットに寄る波濤層ともうにうりくだける

河東 薄 かねる 藤色の似合ふやさしき母なりき母に似むとて紫を着る(評)四、五句に於ける母への思慕の念は深い、只上句に今少しの緊密な表現が欲しく思われる。

大島 目原 節子 託児所に常あすけける初孫の作り笑ひをおぼゆる哀れ(評)託児所に預けられる子供達の多い時代を背景に「作り笑ひ」が心に沁みて哀しい。

田熊 鷲頭かつ代 萬の葉のブロッケンからめるを引かむとするに意外に強し

香椎 桜井 ツツ せめき合ふしは鋼のいづに躍り鳴戸の渦はいま小さく湧く

東郷 藤崎 辰子 柿と蜜柑と二本残りてもこのわが畑は整地されてゆく

小倉北 植原 静子 絨毯を膝に替へたる夏座敷涼しきみえてわれは安んじ

吉留 白木うめ 雨毎に伸びて皮脱ぐ竹の子のしたたるばかり緑をなせる

鐘崎 安水 久子 狂ふと降る雨の中カッパ着て急ぎの商品配達にゆく

小倉北 松本 政子 朝の刻つくる山寺の梵鐘のさやけき響速く聞こゆる

中村 吾郎 選 毎月末日切

曲 天野トモエ 頂きし芍薬の花開きたりこの見事さに礼厚く言ふ

八幡西 山崎 ウラ 雨上り静けさ籠る山行は大根の花ひかりてゆるる

田久 立花 勇雄 あす入院の老妻と別れし語りより今宵限りの別れのごとく

八幡東 江口 妙子 春大根種子まき終へて家路にと小走るわれに夕日のまぶし

福岡 清原 絹代 羽を片手登りし白鳥がかる鴨二羽を連れてもとり来

武丸 中村さつき 道の辺のたんぼの架てよ風に輪郭崩し光りつ飛び八幡東 大塩や子梅雨期とも思えぬ程に晴れたればあじさいの花風情之しき

大島 屋形トミエ 巻網の船団は今出航す逆波に揺れて雄々しく

宮田 片山 朔子 マイホームの夢を描きつつ海に死にし少年の名をも忘れず

名古屋 野崎 博三 一片の雨意の雲なく梅雨期を背きて旬日熱帯夜の続く

池田 小田 イセ 爽やかに風の薫るの頬にふれ眼のゆく処若葉が沁みる

徳重 石松や寿子 真夏日の暑さに耐えて田植する子達の好む朝茶を冷す

日の里 後藤 君代 ま向ひの丘を均せる機械音雨の一日を恋にしひびけり

八幡西 山田 耕夕 迷信と思ひあれど櫛折れし不吉のときり今日も動かす

吉留 高山 信子 繰り返す生にはあらず我ら皆向上一路の道字びゆく

暑中御見舞申し上げます

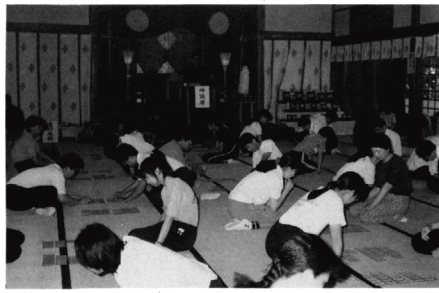


<p>宗 像 支 店</p> <p>支店長 花田 時雄</p> <p>宗像市大字東郷九一八一</p> <p>TEL (094) 361-2107</p>	<p>福 岡 支 店</p> <p>支店長 荒巻 猛</p> <p>福岡町二七二六一五</p> <p>TEL (094) 421-2246</p>	<p>福 岡 支 店</p> <p>支店長 吉里 勇</p> <p>宗像市大字土穴三八八一</p> <p>TEL (094) 337-7211</p>	<p>自 由 丘 支 店</p> <p>支店長 熊懷 輝雄</p> <p>宗像市自由ヶ丘二丁目七十七</p> <p>TEL (094) 335-1511</p>	<p>日 の 里 支 店</p> <p>支店長 八坂 俊暉</p> <p>宗像市日の里一丁目六二〇四一</p> <p>TEL (094) 361-2881</p>	<p>福 間 支 店</p> <p>支店長 花田 寅一郎</p> <p>福岡町大和町二七三八一〇</p> <p>TEL (094) 421-2311</p>	<p>赤 間 支 店</p> <p>支店長 高山 寛</p> <p>宗像市大字土穴三九七一九</p> <p>TEL (094) 335-5655</p>
--	---	---	--	---	--	--

第十四回 宗像大社小倉百人一首かるた大会

熱戦の末矢野五段(大野城市)が優勝

今年で十四回目を迎える宗像大社小倉百人一首かるた大会(主催:宗像大社、協力:九州かるた協会、後援:全日本かるた協会)が、六月十日・十七日の両日、当大社儀式殿・清明殿、齋館の各会場に於て開催され、終日熱戦が繰り広げられた。



本年度は西日本地区でも名実共に評価の高い大会で、例年全国各地の実力者が参加、かるた競技の妙を競っているが、本年度も関東・関西地区を始め九州各県、中国地方から三百余名が集い、両日共手に汗握る戦いが展開された。

- 大会は西日本地区でも名実共に評価の高い大会で、例年全国各地の実力者が参加、かるた競技の妙を競っているが、本年度も関東・関西地区を始め九州各県、中国地方から三百余名が集い、両日共手に汗握る戦いが展開された。
- 尚各級各部
- 三位 小原 麻耶(筑紫女学園高)
 - 二位 小松 洋樹(宮崎市)
 - 一位 鶴田 究(鹿児島市)
 - 二位 吉川 朋江(小野田高)
 - 一位 興福明日香(九州大中学生の部)
 - 二位 下田 幸代(筑紫女学園中)
 - 一位 御手洗寛枝(須恵東)
 - 二位 吉川 竜平(小野田中)
 - 一位 外尾 智恵(筑紫女学園中)
 - 二位 安東 辰徳(植田小)
 - 一位 光内あり(美和台小)
 - 三位 諫山 明美(成宜小)
 - 二位 石黒 勇気(東間小)
 - 一位 飯田 亮子(成早小)
 - 二位 久富 亜依(成宜小)
 - 一位 諫本 光栄(成宜小)
 - 二位 帆足 洋平(成宜小)
 - 一位 大塚 千晴(桜原小)
 - 二位 渡部 翠(須恵第一小)
 - 一位 藤 江利子(日佐小)
 - 二位 豊田 紗知(須恵第一小)
 - 一位 相浦忠美(桜原小)
 - 二位 吉村美香(須恵第二小)
 - 一位 河賀 宏明(弥永西小)
 - 二位 井上 恵宮(松小)
 - 一位 眞理子(日佐小)

「浦安の舞」のご指導を受けて

宗像大社に奉仕する巫女として習得しなければならぬ、最も大事な「浦安の舞」の指導を受けた。六月二十九日より七月一日までの三日間行われた。今回は、二年生を中心に一年生と一緒に指導いただきました。



巫女 麻生 真由美

宗像大社に奉仕する巫女として習得しなければならぬ、最も大事な「浦安の舞」の指導を受けた。六月二十九日より七月一日までの三日間行われた。今回は、二年生を中心に一年生と一緒に指導いただきました。先輩方のお話から多先生のご指導は、とっても厳しいという印象を受けていた私達は、ずいぶん前から緊張していました。その緊張と梅雨の蒸し暑さが、厳しいお稽古と重なって、苦しく感じられました。初日はまず一通り舞って先生に「ご覧いただきました」「下手ですね」と言われました。その日は午前中に練習、午後には鈴舞を中心にご指導いただきました。最初から姿勢が悪い「もっ」と手を上げて「どっ」と足の前まで細い所を一つ一つ注意していただきました。二日目、三日目もピンピンご指導していただき、何とか浦安らしく舞えるようになりました。お稽古の合間の休憩の時に、先生から色々とお話をお伺いしました。「日本人にとって神前舞を舞うという事は、最高に素晴らしいことですよ」と先生の言葉が胸に、これからもいかに舞えるように頑張りたいと思います。最後に「たのしい私達をご指導していただき、ありがとうございました。先生に厚く感謝いたします。本当にありがとうございます。」と、ごさいました。

宗像大社菊花会菊苗贈呈

玄海中・河東中へ七百本

西日本一の菊花大会、西日本菊花大会を主催する、宗像大社菊花会(会長高田太助・会員千名)が、花を愛する豊かな心の育成と、青少年の情操教育の一助となればと、宗像郡玄海町の玄海中学校と、宗像市河東の河東中学校に、菊の苗七百本を贈呈した。

贈呈は、本年の遠賀芳栄会高島雪茂副会長、茂副会長、水巻君友、玄海中学校の有志で、六月十五日正午、菊苗贈呈式に、大輪・懸崖・盆栽など、菊の花を、玄海中を訪ね、両校の生徒の代表に手渡しした。



此の度左記要項にて氏子会の研修旅行を実施致しますので、ご案内申し上げます。

記

- 一、参加資格 宗像市郡にお住まいの方
- 一、実施日 平成二十三年六月十日(月)・十一日(木)・十三日(土)
- 一、旅行費用 六、五〇〇円
- 一、申込金 一、〇〇〇円
- 一、募集人員 八十名(定員になり次第、お切らさせていただきます。)
- 一、日程 第一日目、宗像・小倉日明港

宗像大社氏子会の皆様へ

六月一日 月次祭 神湊午未会三十一名 参拝 還暦奉養祭 齋行 福岡教育大新入事務員 研修於清明殿 六月三日 横浜市師岡熊野神社宮司石川正人氏外一〇二名参拝 六月四日 滋賀県日吉大社 宮司宗宮祐夫氏外六名参拝 玄海町老人クラブ一三〇名境内清掃奉仕 六月七日 滋賀県日吉大社 神官戸高八徳氏外七名参拝 六月八日 東京国立博物館 望月文部技官来社 津屋崎町史蹟準備室 長坂根草氏来社 六月十日 第十四回宗像大社小倉百人一首かるた大会 稜威会青葉淑光氏外六名参拝 六月十五日 月次祭 職員会議 宗像大社菊花会菊苗贈呈 玄海中・河東中 六月十七日 第十四回宗像大社小倉百人一首かるた大会 六月十九日 御大典奉祝宗像大社献田清敏 六月二十四日 宗像大社献田御田植祭 コスモメイ卜二十名参拝 六月二十六日 神高会総会 会長湊川神社宮司吉田智朗氏外四十名 九州管区警察局警察庁 警部財津昌隆氏外三名来社 六月二十九日 出光エナジ 所長河野東洋氏外一名参拝 巫女浦安舞講習開始・多静子先生指示(七月一日迄)

社務日誌抄

六月一日 月次祭 神湊午未会三十一名 参拝 還暦奉養祭 齋行 福岡教育大新入事務員 研修於清明殿 六月三日 横浜市師岡熊野神社宮司石川正人氏外一〇二名参拝 六月四日 滋賀県日吉大社 宮司宗宮祐夫氏外六名参拝 玄海町老人クラブ一三〇名境内清掃奉仕 六月七日 滋賀県日吉大社 神官戸高八徳氏外七名参拝 六月八日 東京国立博物館 望月文部技官来社 津屋崎町史蹟準備室 長坂根草氏来社 六月十日 第十四回宗像大社小倉百人一首かるた大会 稜威会青葉淑光氏外六名参拝 六月十五日 月次祭 職員会議 宗像大社菊花会菊苗贈呈 玄海中・河東中 六月十七日 第十四回宗像大社小倉百人一首かるた大会 六月十九日 御大典奉祝宗像大社献田清敏 六月二十四日 宗像大社献田御田植祭 コスモメイ卜二十名参拝 六月二十六日 神高会総会 会長湊川神社宮司吉田智朗氏外四十名 九州管区警察局警察庁 警部財津昌隆氏外三名来社 六月二十九日 出光エナジ 所長河野東洋氏外一名参拝 巫女浦安舞講習開始・多静子先生指示(七月一日迄)

暑中御見舞申し上げます

福岡中央銀行

日の里支店
支店長 若松 一之
宗像市日の里一丁目二九一八
TEL 〇九四一三六六六七七

赤間支店

支店長 宮永 敏光
宗像市大字土穴字前田三〇一三
TEL 〇九四一三三三三四一

福岡中央銀行

自由ヶ丘支店
支店長 木下 剛
宗像市自由ヶ丘五九七五一一
TEL 〇九四一三三三三二一

宗像農業協同組合

組合長理事 安部 照生
宗像市大字東郷六一一一
TEL 〇九四一三六四一一〇

福岡県中央信用組合

宗像支店
支店長 羽田 徹
宗像市大字東郷九四四一四
TEL 〇九四一三六一二二五二

宗像大社歌会 俳句作品集 (三六)

若松 井手 清隆
元寇の海に日没るほととぎす

藤沢 井上 玄洋
一筋の雲が棚びく五月富士

田熊 安部 ゆき
蒲瀧静寂の宮娘と共に

日里 花田いつ枝
灯を消して一部屋壺に与へけり

田熊 力九 一郎
皇月晴会ふ人こと笑顔かな

福岡中央 力九 玄風
蛇棲まぬ誇りを語るハワイ客

津屋崎 西住喜三郎
鳥賊の足すだれ干して魚期盛り

福岡 広渡一寿軒
藍浴衣風艶かし夏姿

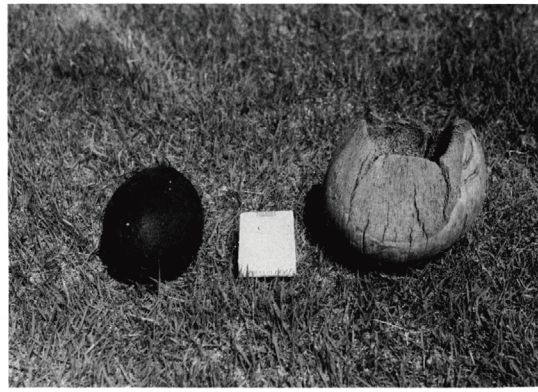


(続) 浜の寄物

48

太平洋側の漂着物

いししいただし



六月三日に実施した「グリーン・くわおクワイ」の参加者と、収集したゴミの量が多かった。参加人数は、六、三二〇人、ゴミの量は二二、四トンであった。初めて試みたのだが、大成功をおさめたといえます。近目中に反省会が行われるので、問題や課題については、次回に記した。

日本海側(安東沿岸も含めて)の漂着物は多いが、太平洋側の実態は、あまりつかない。黒潮の力が強く、あまり漂着物は接岸しにくい面もあるが、素になつてはいる風も、冬季の逆になり、弱い場合もある。昨年、宗像で海の漂着物

展を開いたが、鏡子にある千葉大学臨海実験所の鶴岡先生から、千葉県の海岸に漂着したものを展示していただいた。ココヤシ、ニッパヤシ類やルリガイ、アサガオガイなどもあった。先生の採集品にはオウムガイもあつたのだが、残念ながら別のところで展示されておつた。今回の展示に間に合わなかった。

半島や大陸に近い位置にある、安東沿岸と比較できないであろうが共通するものも多い。太平洋側は、もともと伊良湖岬のヤシなど、漂着物では先物産でもあり、岡谷公二氏は「島の精神誌」(思泉社)の中で、伊良湖岬における椰子の実の漂着は今でもよく見られ、台風のとどろき、昭和四十四、五年頃には、実のつた椰子の木まで流れつたという。これは昨年の五月、伊良湖岬を訪れた際私

が土地の老婦から直接聞いた話である。NHKの番組でも、和歌山県のある浜に漂着したヤシの幹を紹介したのを見たこともある。また日本後記、延暦十八年(七九九)には、崑崙人が綿の種子を持って漂着しているし、九条兼実の玉葉(承安二年(一一七二)七月)には伊豆国に鬼の船が着いたことが見られる。明らかに黒潮によつて運ばれて来た東洋アジア系の人達である。

さて、先日、千葉県我孫子町の本間英夫氏から、お手紙と写真が送つてきた。氏が歩かれる海岸は、鹿島灘に面した長い千葉の海岸線、海岸の一部には、能登半島の海岸のように、車が砂浜に入つて、走行出来るようになってきている。氏の手紙には「漂着物に興味を持ったのは十数年前から。ロープや浮子の取集が、このためではありませんが、茨城県鹿島灘に ANNEEX を設け、基地として海図を所有しています。海の底質も、深さでこれに潮流をわかつています。これを参考にしたい。」

(写真は漂着したココヤシ)

まつりと生活(二十九)

御魂祭りについて

日本人の「祖先崇拜」の祭りとともに、祖霊に供物を供える祭りだったので、古くから重視されてきた。御魂祭りを迎えて供養する「御魂祭り」です。日本人は、昔から正月と七月の年二回の御魂祭りと「御魂祭り」を行っていました。「お盆」先祖の霊が、家々を訪れてくるという現代の日本人の観念は、正月と七月の年二回の御魂祭りのとくに、祖霊が子孫を迎えられてその供養を受けるという、古代の日本人の固有の信仰から形成されたものです。正月行事も本来は殺生道

の祖先崇拜に由来する行事であり、彼岸もまた、仏教の行事ではなく神道行事に由来すると言っています。それは、古代の日本人は、死者の霊が行く場所である「祖霊のお盆」は、どこであると考えたのでしょうか。これにはつぎのような考案があります。最初に考えられるのが、ごく近くの山に祖霊がいるとする考えです。これは古代、死者の葬地としての墓が山中深く定められ、ここに死体が遺棄されたことから発生した他界です。祖

霊は時期を定め、正月や七月の御魂祭りなどに、山から里に降りてきて、家々を訪れて、子孫に繁栄をもたらしたのです。また、「根の国」あるいは「根の国」といわれた。黄泉の国の信仰もありました。さらに、「常世の国」が海上のはるか彼方にあるとする信仰が古くからありました。太陽が昇り、そして没する海上の彼方の常世の国は、古代の日本人にとって、はつともふさわしい祖霊のお盆場所であつたに違いありません。春秋の彼岸も、祖霊がお盆に帰る「常世の国」から、子孫が訪れる「この世」へ祖霊と言います。

わが国は弥生時代以来、水稲耕作による農耕を生産の基礎としたから、農耕社

会でありました。そこでは、灌漑、播種、植付、収穫のすべてにわたつて共同することが必要です。当然イエヤマラの定着農業生活を意識させるようになり、祖霊の御加護を得ようとする信仰が成立しました。

このように、古代の日本人は、死んで肉體は土に還つても、その霊魂は遠く十萬億土の彼方へ行ってしまつたのではなく、自分たちの里近くの山などに留まつて、正月や盆には、家々



暑中御見舞申し上げます

玄海国定公園の中心…白砂青松の海水浴場…宗像大社からバス五分…神湊旅館組合
市外局番(0940)

あけぼの荘	魚屋旅館	みなと荘	玄海旅館	高嘉旅館	ニュー千鳥荘	大島屋旅館	松風荘	泉館旅館	魚庄	川口屋旅館	はま荘
電話 六二二六六番	電話 六一二二三番	電話 六一二三五番	電話 六一〇〇一番	電話 六一二二二番	電話 六一〇〇六八番	電話 六一〇五五五番	電話 六一〇二〇番	電話 六一〇〇三五番	電話 六一三三五五番	電話 六一〇〇四八番	電話 六一〇五〇〇番